

つくば科学フェスティバル'98 「化石の不思議発見」-古生物の世界-を終えて

佐藤 喜男¹⁾・谷田部 信郎²⁾・吉田 朋弘²⁾

はじめに

つくば科学フェスティバルは、1996年10月10日から始まった、小・中学生を対象とした実験等を通して科学をより身近な物として考えてもらうイベントです。つくば市内には大学・研究機関がたくさんあり参加・協力する研究者も多く、つくば市を代表する行事となりました。地質調査所は初回から積極的に参加して来ました。

今年のつくば科学フェスティバルには、小中学校を中心に国公立機関や民間機関を併せて40機関の

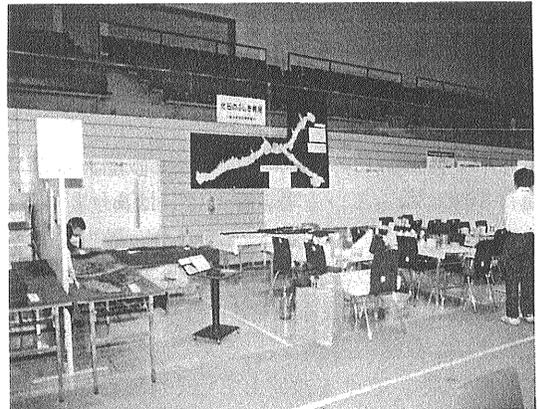
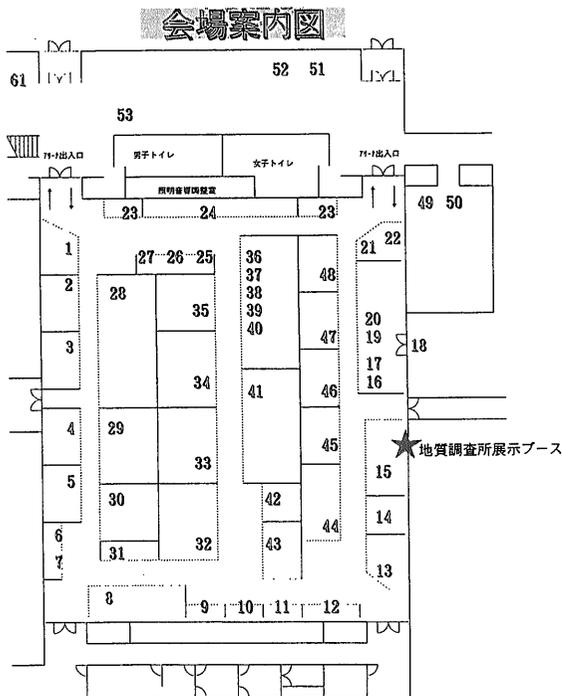


写真1 地質調査所つくば科学フェスティバル1998年展示ブース。



第1図 つくば科学フェスティバル, カピオ会場見取り図。

出展がありました。今年地質調査所は、発見されたばかりの恐竜類の足跡化石のレプリカ標本作製、アメリカで採取された恐竜のボンベットのクリーニング体験、魚竜化石を中心とする三畳紀前期～後期の海棲ハチュウ類化石の展示を行いました。

展示ブース概要

地質調査所の展示ブースは、会場(つくばカピオ)1階東壁側の15番ブース(第1図★)で、正面に恐竜の足跡化石のシリコン型を展示し(写真1)、向かって左側にレプリカ化石標本(ウタツ魚竜化石, クダノハマ魚竜化石, カナダ産魚竜化石, 北イタリア, ベザーノ産三畳紀中期海棲ハチュウ類化石・魚竜化石・魚類化石)の展示やテーブルの陰になっていますが左側奥に化石クリーニング体験用のボンベットのブロック、そして右側に恐竜の足跡のレプリカ作製のコーナーを設けました(写真1)。

1) 地質調査所 地質標本館
2) 地質調査所 総務部

キーワード: つくば科学フェスティバル, つくばカピオ, 化石クリーニング体験, レプリカ標本作製, ボンベット



写真2 恐竜類足跡化石レプリカ化石標本作製体験コーナー。

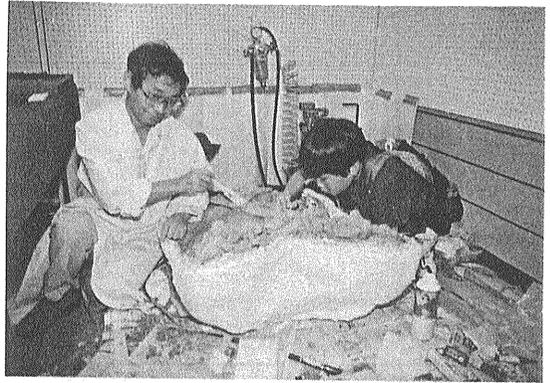


写真3 恐竜ボンベッド化石クリーニング体験コーナー。有田統括研究調査官の真剣な化石クリーニングの様子は多くの来場者の興味を引きました。

化石レプリカ標本作製

今回のレプリカ作製の題材は、富山県大山町で発見され新属・新種として記載された小型鳥脚類「*Toyamasauripus masuiae* Matsukawa, Hamuro, Mizukami and Fuji」の足跡化石にしました。

レプリカ作製は、様々なイベントで開催されていますが、いつも子供達の人気コーナーです、自分の手で何かを作るという機会は、最近の子供には少ないのかもしれませんが、スペースの関係で多くの人数を体験させることは難しかったのですが、それでも2日間で300人近い子供達が自分でレプリカ標本を作り、持ち帰ってくれました(写真2)。

化石クリーニング体験コーナー

アメリカ合衆国ワイオミング州の白亜紀の地層から発見・採取された恐竜のボンベッド(骨の密集層)を使用して、子供達に化石クリーニングを体験させました(写真3)。ブースのスペースが少なかったため、沢山の子供達に体験してもらうことはできませんでしたが、実際に骨の形がでてくると驚きを隠せない様子でした。

このボンベッドは、80×80×50cmほどの大きさですが、重量が160kgにもおよび、運搬に苦労しました。しかし、子供達の「驚きの声」「喜びの声」を聞くと、この体験コーナーが大成功であったことは疑う余地もありません。

なお、このボンベッドの中には角竜(ケラトプス

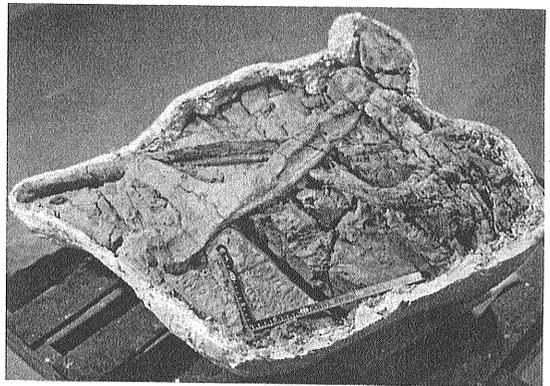


写真4 化石クリーニング体験終了後のボンベッド。

科)トリケラトプス(*Triceratops* sp.)の最前部左側の肋骨が入っていることが明らかとなりました。

展示標本解説

(1) 富山県上新川郡大山町恐竜類足跡化石群

富山県大山町では、1994年に白亜紀前期の手取層群石徹白亜層群長棟川層猪谷互層から302個に及ぶ大量の恐竜類(竜脚類・鳥脚類・獣脚類)の足跡化石が発見されました(本田, 1998)。露頭全体の写真、連続歩行が確認され新属・新種として記載された小型鳥脚類の連続歩行痕、トヤマザウリップスの復元図等を展示・解説しました。

連続歩行痕のレプリカ化石標本は地質標本館第4分類展示室に、足跡化石は第1展示室の触られる恐竜化石のコーナーに常設展示されています。

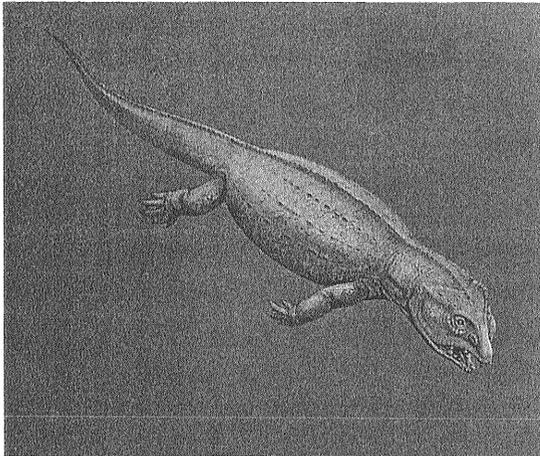


写真5 イタリア、ベザーノ産海棲ハチュウ類 *Cyamodus hildegardis* Peyer 生態復元図(チューリッヒ大学付属古生物博物館提供).

(2) 宮城県本吉郡歌津町産魚竜化石及びカナダ産三疊紀後期魚竜化石

宮城県歌津町では、1978年に三疊紀前期の稲井層群大沢層から日本のセキツイ動物化石を代表する(浜田・糸魚川, 1995), ウタツ魚竜化石(国指定天然記念物)が発見されてからも続々と新しい魚竜化石が発見されています。特に1985年には三疊中期の稲井層群伊里前層からミクソザウルス科に属するクダノハマ魚竜化石が発見され、魚竜化石の6大産地に加えられ世界的に有名になりました。(佐藤ほか, 1996)。

歌津町魚竜館では、町政40周年を迎えるのを記念して「世界の魚竜化石展」を平成11年7月20日～

9月末まで計画しています。カナダ, プリティッシュコロンビア州産三疊紀後期魚竜レプリカ化石標本 *Shastasaurus neoscapularis* Mcgowan はこの特別展示のために寄贈されたもので、展示した標本は歌津町魚竜館・東北大学理学部地質標本館の協力によるものです。

(3) イタリアベザーノ産海棲ハチュウ類化石

イタリア, ミラノ北部のスイス国境の町ベザーノでは、歌津町に分布する地層群とほぼ同時代の三疊紀中期の地層群が分布しており、クダノハマ魚竜と同じ属に属する魚竜化石が発見されています。

展示した標本は三疊紀中期の魚竜化石; *Mixosaurus cornalianus* (Bassani), 海棲ハチュウ類; *Cyamodus hildegardis* Peyer, 海棲ハチュウ類; *Nausticosaurus* sp., 魚化石; *Saurichthys* sp., *Ophiopsis* sp. の5点です。これらの化石の原標本はミラノ市立自然史博物館, チューリッヒ大学付属古生物博物館に所蔵されています。

引用文献

- 本田光信(1998): とやま恐竜時代. 北日本新聞社. 99p.
 佐藤喜男ほか(1996): 歌津町の地層と魚竜化石. 歌津町教育委員会, 30p.
 浜田隆士・糸魚川淳二(1995): 日本の化石. 自然観察シリーズ17, 小学館, 166p.
 松川正樹(1998): 恐竜ハイウェー. PHS新書, 206p.

SATO Yoshio (1999): Display for Tsukuba Science festival in 1998 "Wonderfull world of fossil"

<受付: 1998年12月22日>